

ひばりクリニックでの研修を終えて

吉永 智則

この間の研修では、半日という短い時間ではありましたが、大変お世話になりました。まず、最初に難しいと感じたことは、この間も述べさせていただきましたが、患者様とのコミュニケーションでした。主訴のない患者様と桜の話をしたり、天気の話をしたり、普段病院では必要な情報を最小限に聞きだすことしかしたことがなかったため、日常的会話をするのが患者様との信頼関係を少しでも築くことができるということを学びました。実際に経験させていただいたこととしては、訪問させていただいた患者様と上記のような日常会話を交わしたことで、採血がとりやすくなり、関わり方次第で患者様の自分に対する反応が変わってくるということを感じました。また、一緒にいた学生さんの診察をしている姿を見て、自分よりの確かかつその患者様のための関わり方をしていると強く感じ、自分の未熟さを改めて実感しました。以上のことから、在宅医療というものは通常の外来とは異なり、患者様との日常的関わりが多く、自宅や生活の環境をより詳しく把握することができ、社会的背景がよりわかるということを知り、通常外来においても少しでも患者様と深く接せられるように今後は気をつけていきたいと感じました。

小児の患児様の自宅へ訪問する際、患児様が喜ぶように被り物をし、芸を披露し、医師と患児との関係が治療に対する恐怖ではなく、安心・安堵と感じさせるように接しているのだと感じました。ただ、芸と呼べるものがない私は、何か一つでも人前で披露できるものを身につけようと思いました。また、そのような安心感を与えられるためにはどのように接するべきなのかということも日常的に考えることを心がけていきたいと思いました。

自分も将来は、開業したいと考えており、今回研修を終えて在宅医療への興味を強く持ち、先にはなりますが様々なことを学びたいと強く思いました。1日という短い研修ではございましたが、大変お世話になりました。また、何か機会がございましたら、よろしくご依頼申し上げます。